

学習・発達の多様性と語学の授業 いかに関係するか

学習の多様性を「障害」にしていませんか？

『障害』とは何だろうか？

- impairment** ⇒ 機能障害：生物学的な変調（視覚障害・聴覚障害など）
- disability** ⇒ 能力障害：実際の生活遂行能力に影響が出た状態
- handicap** ⇒ 社会的不利：社会的役割が果たせず不利益な状態に置かれること

WHO (1980). International Classification of Impairments, Disabilities, and Handicaps. Geneva.

『障害』認定されてしまう発達の多様性

- ASD (自閉症スペクトラム障害)**
※法則性が覚えられない
※語用論的問題
- ADHD (注意欠陥・多動性障害)**
※聞き洩らし
※注意が散漫になりやすい
- 協調運動障害**
※板書やノートテイキングが難しい
※不器用（鉛筆を正しく持てない、定規を使ってまっすぐ線を引くのが困難など）

一斉授業では困難が顕著になる学習の多様性

- 書き困難
- 読み困難
- 推論困難
- 計算困難
- 聴覚情報処理困難

学習の多様性は

- ・知的障害ではない！
- ・聴力や視力の問題ではない！
- ・脳の働きが異なるだけ！（字の形は捉えられないが立体視に優れる、計算が苦手だが幾何学は得意等）
- ・読み・書き・計算・推論において大多数とは異なる認知処理をするため一斉授業では障害として扱われがち（認知特性の多様性に配慮すれば適応可能！）
- ・偏った教え方・学習方法しか認めないと知的レベルに比べて学業不振という社会的不利

例えば・・・

読み困難の原因：
字の形が捉えられない
字とその音が結びつかない
文章が歪んで見える

書き困難の原因：
字の形が捉えられない
目で見た通りに手を動かすことができない
見ることと書くことが同時にできない
考えることと書くことが同時にできない

一斉授業かつ指導法が偏っている英語の授業では学習の困難が顕著に！

アルファベットが覚えられない

- ・字の形が捉えられない
- ・音素意識に問題があり文字とその読みが一致しない
- ・微細運動が苦手です正しく書けない
- ・文字の想起（思い出すこと）に時間がかかる

単語や文を音読できない

- ・字の形が捉えられない
- ・文字や文が歪んで見える
- ・文字や文が動いて見える
- ・音韻意識に問題があり単語とその読みが一致しない
- ・文字の想起（思い出すこと）に時間がかかる
- ・文字と紙のコントラストがはっきりしない/強すぎる

文法規則が覚えられない

- ・（本人にとって）無意味な規則を覚えるのが苦手（数学の公式も苦手）
- ・音韻意識に問題があり熟語とその読みが一致しない
- ・特異的文法障害の疑い（日本語でも文法間違い）
- ・音声変化（連結/同化/短縮/脱落/変形/弱化）の問題

単語が覚えられない

- ・字の形が捉えられない
- ・音素/音韻意識に問題があり文字/単語とその読みが一致しない
- ・文字の想起（思い出すこと）に時間がかかる
- ・微細運動が苦手です正しく書けない

読解力が低い

- ・字の形が捉えられない
- ・音素意識に問題があり文字とその読みが一致しない
- ・文字や文が歪んで見える
- ・文字や文が動いて見える
- ・文字の想起（思い出すこと）に時間がかかる
- ・文脈理解の問題（ASD）
- ・指示語が何を指すか分からない（ASD）
- ・文法規則の問題

「覚えるまで何度でも書きなさい！」と叱る前に・・・

その指導に根拠がありますか？ 他に手立てはないのでしょうか？

診断がなくても多様性はある！ 教室の中にある『社会的不利』

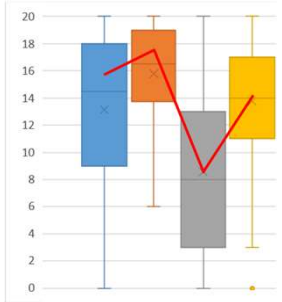


図1: 本研究被験校のURAWSS English 得点分布 (赤線は評定基準記載の平均正答数)

公立中学校1年生55人を対象に、英単語の読み書き能力を測定する検査『URAWSS English』を実施した。実施時期は学年末で、出題された英単語は既習である。検査対象者は、保護者から発達障害、学習障害などを理由とする合理的な配慮願いが出されていない生徒で、保護者が研究計画書を書面で確認し、研究への参加を同意した生徒のみ、検査に参加した。このうち解答方法に間違いのあった解答1件を無効とし、残る54件を有効データとして分析した。

有効データの得点分布を見ると、和訳問題では単語の発音をヒントとして与えた場合に、英訳問題ではカナ表記を認めた場合に得点が改善された（図1）。被験者に学習障害の診断を持つ者はいなかったが、B判定（要観察）・C判定（要精査）の生徒がいることが確認された（図2）。

『URAWSS English』と合わせて日本語の読み書き能力を測定する『URAWSS II』も実施したところ、日本語でもB・C判定となる生徒がいることが確認された（図2）。また、『URAWSS English』と『URAWSS II』の結果を相関分析したところ、日本語の書き能力とはやや相関があるが、読み能力との相関は弱いという結果だった（表1）。

以上の結果から、保護者から合理的な配慮願いが出されていない生徒にも、英語の読み書きで困難を抱えている者が多いことが確認された。中学校1年生の学年末で既に差が出ているということは、指導法の見直しなど対策が必要であることが示唆される。

	EJ_L	EJ_V	JE_A	JE_K	J_W_PS	J_R_PS
EJ_L	1	0.861989	0.840473	0.802401	0.480672	0.377505
EJ_V	0.861989	1	0.731448	0.831276	0.450199	0.40526
JE_A	0.840473	0.731448	1	0.806809	0.514238	0.316295
JE_K	0.802401	0.831276	0.806809	1	0.540076	0.32256
J_W_PS	0.480672	0.450199	0.514238	0.540076	1	0.539952
J_R_PS	0.377505	0.40526	0.316295	0.32256	0.539952	1

表1: 本研究被験校のURAWSS EnglishとURAWSS IIの相関係数行列

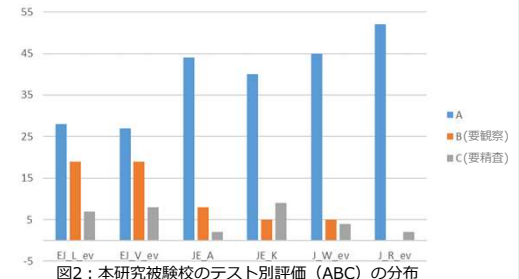


図2: 本研究被験校のテスト別評価 (ABC) の分布

URAWSS II	URAWSS English
J_W: 書き問題	・和訳
J_R: 読み問題	EJ_L: 発音のヒントがない場合の正答
	EJ_V: 発音のヒントがある場合の正答
	・英訳
	JE_A: アルファベット表記のみ正答とした場合
	JE_K: カナ表記も正答とした場合

学習の多様性に配慮した指導とは？

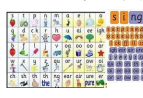
多感覚を使った指導・教材



Assistive Technology



フォニックス



音韻認識トレーニング



認知心理学にもとづく記憶術

- ・エピソード記憶
- ・語呂合わせ

予定・見通しを示す



社会的不利はイジメや差別につながります！ 認知機能や学習の多様性に配慮して誰もが能力を伸ばせる教育を！